



元気おおとよ新聞

新年明けましておめでとうございます

大豊町の皆様にはご家族ですばらしい新春を迎えられたことと思います。
本年も「NPO法人元気おおとよ」へのご支援ご協力をどうかよろしくお願いいたします。

年4回発行の「元気おおとよ新聞」も今回7年目で28号を迎えます。
記事ネタ選びや締め切りに追われながらも手作りの良さを生かそうと鋭意がんばっています。
今後とも変わらずのご愛読をどうかよろしくお願いいたします。（理事長）



ひっそり進行！？

そば物語「収穫編」

今年のそば物語はひっそりと進行しております。大変申し訳ありません。

今年のそば撒きは成功したものの、鹿の被害にあってしまいました。一時期は綺麗な白いそばの花が一面に広がっていましたが、油断いたしました。

「そろそろ収穫の時期だな。もう一度周りの草刈りをして準備をしよう。」

そう思い畑へ行くと、「そばがない！！この間見たときにはたくさんあったのに…」

頭は真っ白。よく見ると、そばの茎がちらほら。実のついた先だけなくなり、鹿の糞だけがポツポツ…。これが本当のお礼肥えなのか…鹿の微笑みが頭に浮かぶようでした。



そんな中、そば刈りをしませんかとお声掛けいただき、大平の方へそば刈りに行かせていただきました。

4畝ほどのそば畑を一生懸命に刈らせていただき、半日で収穫は終了。この記事が掲載される頃には、脱穀も終わり、美味しいお蕎麦になっていると思います。



今回の反省を活かし、来年は電柵の設置も検討します。今後も引き続きそば物語は 進行しますので、応援の程よろしくお願いいたします。（中平）

最後にお知らせ

令和2年2月9日（日）

そば物語そば打ち編を開催予定です。

興味のある方は090-6559-9234（担当：なかひら）までご連絡ください。お待ちしております！



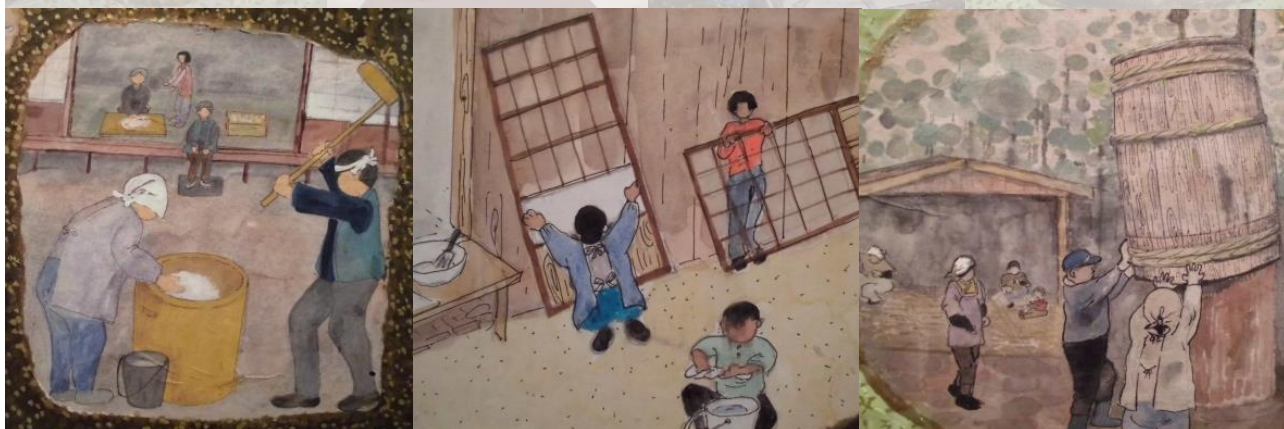
ピックアップ in 大豊 vol. 4

「絵が語る大豊の暮らしや生業の史」前回の問題の答え



場所は **大豊町大平(おおだいら)の夢来里(むらざと)** 作者は **都築将子さん**

作品のいくつかを紹介しましょう。今はあまりお目にかかることのできなくなった懐かしいむかしの暮らしぶりを、思い出話など交えながら語り合っていただけたら幸いです。（鄙）



元気おおとよイベント予定

◆1月～3月 空き家再生ワークショップ
使われなくなった空き家のリフォームを、ワークショップ形式で実践し、住めるようにします。参加者募集。（詳しくは、お問い合わせください）

◆2月9日（日）そば物語④～そば打ち体験～
【時間】10:00～13:00
【場所】ふれあいセンター3階調理室

ガレット出店予定

◆2月22日（土）
うだつマルシェ（徳島県三好市池田町）

移住者紹介



もちづき なおや
望月 直哉さん

約2年前に大豊町に移住。現在、町内の農業法人に勤めている兵庫県出身の24歳の望月直哉氏に、大豊町へ移住してきたきっかけや、今の暮らしなど伺いました。

大豊町へ移住したきっかけは？

元々地元の農業法人でアルバイトを辞めたころ、先に大豊町に移住していた友人の誘いで、今の職場のアルバイトに行くようになったのがきっかけです。アルバイトをしながら大豊町に住むうち、周りの親切さに触れることが多くそれがとても嬉しかったり、自然が好きで、住んでいて落ち着けるところが気に入りました。それに、周りに同じような年代の人が大豊町に集まってきているタイミングだったのも移住する後押しになったと思います。

趣味はなんですか？

野球が趣味ですが、周りにチームが無いのと仕事が忙しくなかなかできないですね。あとはドライブで梶ヶ森に行ったり、室戸岬に朝日を見に行ったりしました。



大豊町の第一印象は？

とにかく崖がすごい！ド田舎だ！！と思いました。友人には詳しいことを聞かずに来たので本当にびっくりしました。崖の上に家がある！と驚いたのを覚えています。

今の暮らしはどんな感じ？

農業の仕事はとても楽しいです。ご近所の方々とも良くしてもらっていますし、地区の行事にも参加したりして充実しているなと感じています。

大豊に来て困っているところは？

飲食店が少ないのと閉まるのが早いのがちょっと残念です。あとドラッグストアともう少し街灯が欲しいです（笑）

インタビューを終えた感想は、とても明るくて前向きな印象の好青年でした。これからも職場や地域で活躍してほしいと思える、彼の今後に期待したいです。（猪野大）

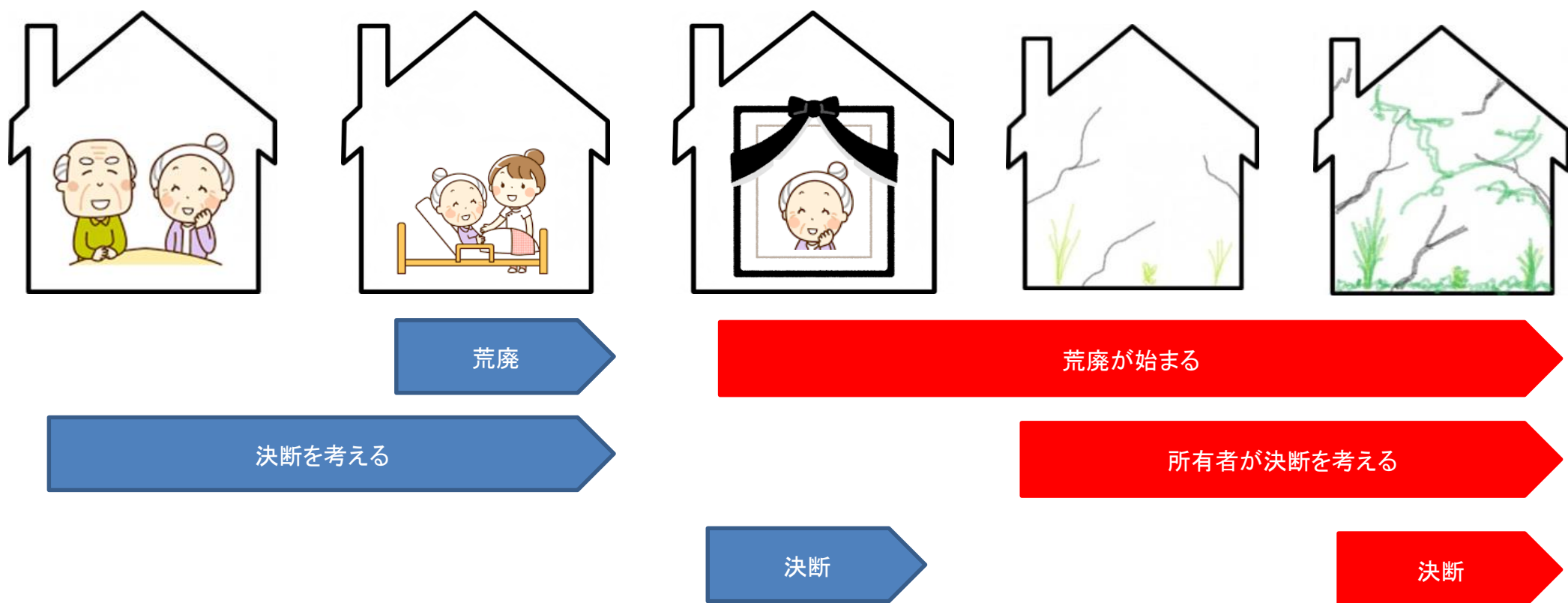
あなたなら、どうする？

～空き家の老朽化と決断のタイミング～

多くの方は、家主がなくなって3回忌を過ぎたあたりから、空き家はどうするか考え始めるのではないのでしょうか？ 相続や荷物の整理など、様々な問題を解決するうちに、2～3年はあっという間に過ぎていきます。いざ決断し、貸したい・売りたいと思った時には、空き家になってから5年以上経過している場合が多く、家屋は荒廃し、水回りは改修が必要な状態になっていることがほとんどです。

家の荒廃は、人が住まなくなった時点から始まります。早い段階で家の行く末を考え、決断をすることで、自分が生まれ育った故郷の家が、次は誰かの故郷になる。そんなふうを考え次の世代へ引き継いでおられる方々も少なからず増えてきています。ぜひあなたの家の行く末について考えてみませんか？

◆意識のズレ



◆選択肢は4つ

- ①**家族が使用** 一番いい方法。ふるさとを残すことができる。
- ②**賃貸** 家屋・ふるさととは存続。大家という責任が発生。多少の収入。**相手が必要**
- ③**売却** 家屋・ふるさととは存続。所有権はなくなる。多少の収入。**相手が必要**
- ④**解体・撤去** 何も残らない、ふるさとがなくなる。多額の費用が発生する。

②または③をお考えの場合は、ご相談ください。

野田：080-8635-2253